

成果指標				
成果指標	伊予市・セーラム国際交流委員会(事業部を含む。)の開催回数			
指標設定の考え方	本市の国際交流事業の方向性等について検討を行った結果、オレゴン州セーラムとの将来的な友好都市の締結も視野に入れた継続的な交流活動を目指すことと決定したため、当該活動の推進団体である国際交流委員会を設立し、協議・検討を行った回数を指標に設定した。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	目標29年度
目標	3	3	3	3
実績	4	4	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	事業費の削減や対象とする派遣生の枠の拡大など、事業の見直しに向けた検討に着手した。しかしながら、懸案の経済交流を含めて、具体的な成果を得ることはできなかった。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	国際交流活動を実施、外国人と住民の交流・国際理解・国際協調の推進を図ることを目的に、伊予市・セーラム国際交流委員会に補助する事業。主には、次世代を担う中学生を対象にオレゴン州セーラムとの都市交流を推進するために、海外派遣事業を実施しており、一定の成果を得ている。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	現在事業としては、市内の中学生がアメリカオレゴン州セイラム市でホームステイする事業のみである。今後事業の拡大が見込めないのであれば、国際交流事業としての位置付けを見直す必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。